

☆ 授業のヒント

みなさんは、教室でビデオを使って日本語を教
えていますか。今回は、ビデオ教材をどのように
教室で使うかを考えていきたいと思います。

テーマ ビデオ教材の使い方

| |
|---|
| 目的 もくてき |
| <ul style="list-style-type: none"> ビデオ教材を使った教室活動にはどのようなものがあるかを知る。 ビデオを使った教室活動をより効果的にする方法を考える。 |
| 学習者のタイプ がくしゅうしゃ |
| <ul style="list-style-type: none"> 初級から上級 |
| クラスの数 にんずう |
| <ul style="list-style-type: none"> 何人でも |
| 準備するもの じゅんび |
| <ul style="list-style-type: none"> ビデオテープ、ビデオデッキ、ワークシートなど |

◆ビデオ教材の色々

ビデオ教材にも色々な教材があります。それらを挙げてみますと、

- 日本語の文型や会話の練習用に作られたもの
- 日本の文化や事情紹介を目的としているもの
- テレビで放送されたコマーシャルや様々な番組の録画や市販の映画、アニメのビデオ（以下、この3番目のビデオ教材を「生のビデオ教材」と呼びます。）

の3つに大きく分けられます。生のビデオ教材の場合、一番問題になるのはビデオの著作権の問題です。皆さんの中には、各自で録画したり、借りてきた生のビデオ教材を授業に使った経験のある人もいます。その場合は、教室内部では使用可能ですが、そのビデオをもとに作った教材は、販売したり、他の人に貸したりはできませんので気をつけましょう。このように生のビデオ教材はその使い方に制限がありますが、学習者の関心や学習動機を高める効果がとても高く、使用したいと思っている人も多いのではないのでしょうか。

参考文献として著作権上の問題を解決した国際交流基金の

ビデオ教材を載せましたが、販売はされていません。

◆使用目的の色々

ビデオの使用目的も様々です。それらを挙げてみますと、

- ビデオの内容を理解する力をつける
- ビデオの中にてでくる文法や表現、語彙など言葉を学習する
- ビデオの内容をもとにコミュニケーション能力を高める
- ビデオの内容をもとに、自分の国の文化や習慣と似た点や違う点を考える力をつける
- ビデオ自体を楽しむ

などが考えられます。

今回は主に上記の1)～2)の目的を考慮したビデオの使い方を紹介します。

◆ビデオの内容を理解する活動

ビデオは、見て聞いて理解するものです。言葉がよくわからなくても、映像によって内容を理解することができます。その一方で、見えるものや聞こえるものが非常に多いので、人によって何をどのように見たらよいかわからなくなることもあります。また、わからない言葉が気になって先を見続けることができなくなる人もいます。ですから、見る前に目的を与えることが大切です。学習者は、一度に細かいところまで見たり聞いたりすることはできませんから、見るたびに新しい目的を与えるようにしましょう。同じものを繰り返し見たり聞いたりするときには、易しい課題から難しい課題へと段階を踏んで目的を与えることが大切です。

最初は、映像からわかること、どんな場面か、どんな人が出てくるか、どんなことを話していると思うかなどを、見る目的にします。言葉を全部聞き取る必要はない

という指示をするのも大切なことです。場面と人は、映像を見ればすぐにわかります。話の内容については、場面によって簡単に推測できるものもありますし、いくつかの単語を聞き取ることによってわかる場合もあります。

例えば、国際交流基金の「TVコマーシャル集」に入っている「10.喫茶店」は、タイトルの通り、喫茶店が舞台です。客がコーヒーを注文すると、店長が大急ぎで自動販売機まで缶コーヒーを買いに行き、それをカップに入れて出すという内容です。このビデオを見せる場合、「場所・登場人物・登場人物が何をしたか」に注意して見るように指示します。喫茶店が舞台ですから、客と店長の会話の内容もすぐにわかります。しかし、最初には日本語を正確に聞き取ることを目的にはしません。まず、学習者に見てわかる、話していることもだいたいわかるという達成感を与えます。

その後で、どんな会話だったかを学習者同士で話し合い発表してもらおうといいでしょう。クラスの中でいくつかの案が出たところで、もう一度、ビデオを見て確認します。学習者は自分たちが考えたものがビデオと同じかどうかを確認することができます。自分たちの答えを自分たちで確認する作業は、自律的な学習者を育てるのにも役に立つでしょう。

それから、このコマーシャルの場合は、どんな点が面白いのか、どのような商品だと言っているのかななどについても、学習者同士で話し合うといいと思います。

◆ビデオの中に出てくる文法や表現、語彙などの言葉を学習する活動

今回紹介するのは、学習させたい語彙や表現、文法項目の部分を空欄にして、学習者に書かせるという方法です。空欄を埋める書き取りですから、穴埋めディクテーションと呼ぶことにします。

学習者に、まず、上記にあるビデオの大体の内容を理解させる活動をします。その後で、語彙や文法項目に注意させる活動に移ります。教師は、注目させたい語彙や文法項目を空欄にしたビデオの SCRIPT を用意します。学習者はビデオを見ながら空欄に適切な言葉を書き入れていきます。穴埋めディクテーションの場合、ビデオの長さは5分以内が適当です。

次に、具体的な進め方の一つを簡単に紹介します。穴埋めディクテーションは空欄に書くための時間が必要

ですから、空欄の部分にきたら、文や節の単位でビデオを止め、まずクラス全体に答えを尋ねます。学習者の答えがばらばらだったり、正しい答えを言う人がいなかったりした場合は、その部分を繰り返して見せます。そして答えが正解にたどり着いたところで、空欄に書き込ませます。この方法だと、まず学習者は聞くことに集中できますし、正解がわかった後で答えを書き込むので、何回も書き直す必要がなく、時間の節約にもなります。また、聞くことに集中させたい場合は、ビデオの画像を見ないで音だけに集中するように指示してもいいでしょう。ディクテーションが終わったら、もう一度カット毎にビデオを見ながら、必要に応じて語彙や文法項目の説明を加えます。ビデオの良い点は、学習させたい文法や表現、語彙などの使われ方を場面や音声、体の動きや表情などと一緒に見せられることです。ですから、その利点を利用して、文法や語彙の意味を教師が一方的に説明するのではなく、学習者に推測させたり、登場人物の体の動きや表情などを観察させたりしましょう。また、語彙の場合は、似た意味の語や反対の意味の語、関係のある語などを学習者に出してもらおうと、教室活動が活発になり、学習者は能動的にクラスに参加しながら語彙を増やしていくことができるでしょう。



参考文献

- 『視聴覚教材とその使い方』NAFL Institute 日本語教師養成通信講座
- 『視聴覚メディアと日本語教育』NAFL Institute 日本語教師養成通信講座
- 『日本語教育用 NHK テレビ番組集 1～六番組の小夜子～』国際交流基金日本語国際センター
- 『日本語教育用 NHK テレビ番組集 2～アニメーションあずきちゃん～』国際交流基金日本語国際センター
- 『日本語教育用～TVコマーシャル集～』国際交流基金日本語国際センター

小玉安恵、阿部洋子（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。